

瀬戸内海（大阪湾、播磨灘北西部、備讃瀬戸、燧灘東部、燧灘北西部、広島湾西部、響灘及び周防灘）の状況について

1. 瀬戸内海の水域類型指定の状況（図 1）

瀬戸内海の検討対象水域（大阪湾、播磨灘北西部、備讃瀬戸、燧灘東部、燧灘北西部、広島湾西部、響灘及び周防灘）におけるCODの類型指定概況は、ほとんどの水域で類型Aに指定されており、大阪湾奥部で類型B及び類型C、播磨灘北西部全域において類型B、備讃瀬戸及び周防灘の一部で類型Bに指定されている。

また、全窒素及び全磷の類型指定概況は、ほとんどの水域でⅡ類型に指定されており、大阪湾奥部でⅢ類型及びⅣ類型、備讃瀬戸の一部でⅢ類型、響灘及び周防灘の一部でⅢ類型及びⅣ類型に指定されている。

2. 瀬戸内海の水質

(1) COD、T-N、T-P（図 2）

CODについては、大阪湾及び広島湾において3.0mg/Lを超える水域が存在する。また、T-N及びT-Pについては、大阪湾において、それぞれ1.30mg/L、0.110mg/Lと高い数値を示している。これらの水域以外については、概ね良好な水質が維持されている。

(2) 底層DOの状況（図 3）

大阪湾、広島湾及び周防灘において、湾奥部を中心に夏期に底層DOが低下する傾向がみられる。その他については、概ね低下する水域は見られない。

3. 検討対象水域の干潟・藻場・浅場の概要（表 1、図 4～図 10）

瀬戸内海の検討対象水域の干潟・藻場は、備讃瀬戸、燧灘北西部、響灘及び周防灘において他の水域より多く分布しており、備讃瀬戸の干潟が57箇所（計：893.2ha）、藻場が146箇所（計：1,128.4ha）、燧灘北西部の干潟が123箇所（計：646.2ha）、藻場が267箇所（計：1,347.6ha）、響灘及び周防灘の干潟が43箇所（計：5,965.3ha）、藻場が48箇所（計：3,371.8ha）となっている。

また、検討対象水域は、一部30m以深の箇所も見られるが、全体的に30m以浅の浅場が多い水域となっている。

4. 水産資源保護法に基づく保護水面及び規制・条例等による保護水域の指定状況（表 2、図 11～図 12）

検討対象水域における水産資源保護法に基づく保護水面は、備讃瀬戸において3箇所、燧灘東部において1箇所、燧灘北西部において1箇所、広島湾西部において1箇所、響灘及び周防灘において3箇所が指定されている。

また、関係県の漁業調整規則、漁業管理委員会指示に基づく保護水面は、備讃瀬戸において7

箇所、響灘及び周防灘において 10 箇所が指定されている。

5. 瀬戸内海における主な魚介類（表 3）

瀬戸内海については、「瀬戸内海の生物資源と環境（岡市ら 1996）」、「瀬戸内海のさかな（瀬戸内海水産開発協議会編 1997）」及び「日本全国沿岸海洋誌（日本全国沿岸海洋研究部会編 1985）」から、合計 61 種（魚類 40 種、イカ・タコ類 5 種、エビ・カニ類 6 種、貝類 9 種、その他 1 種）を主な魚介類として整理した。

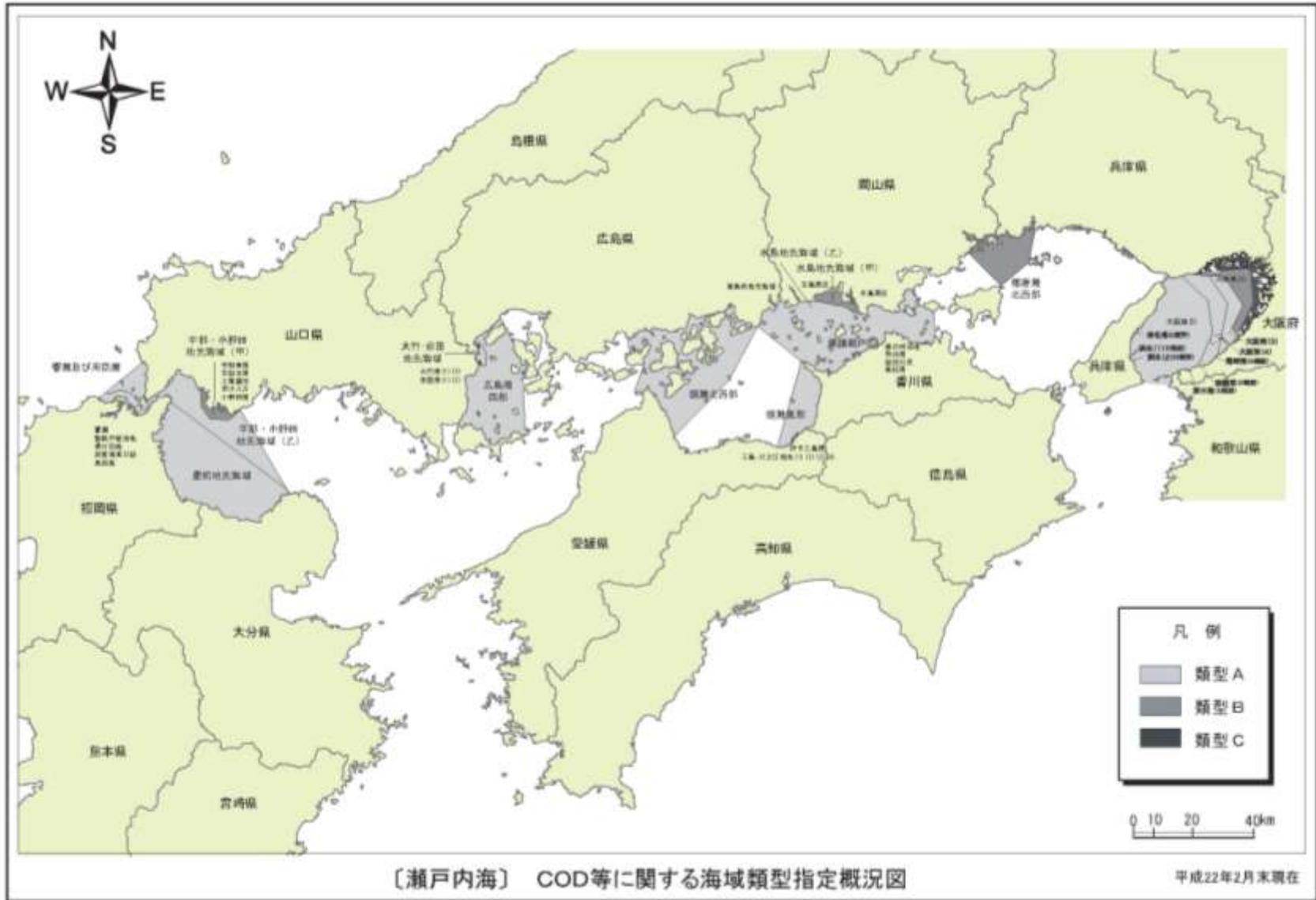


図 1 (1) 瀬戸内海における COD の類型指定概況図 (国が指定する水域)

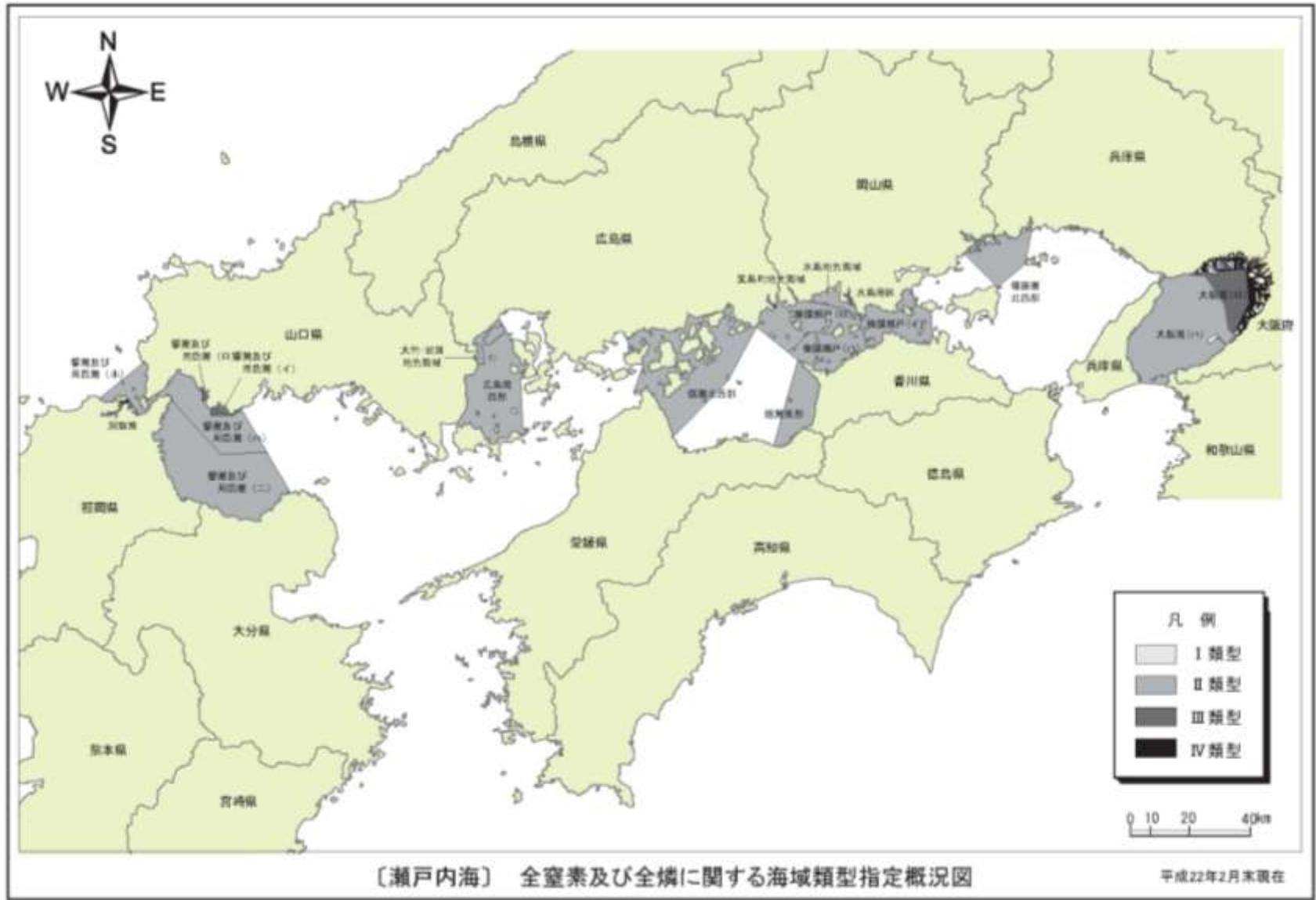
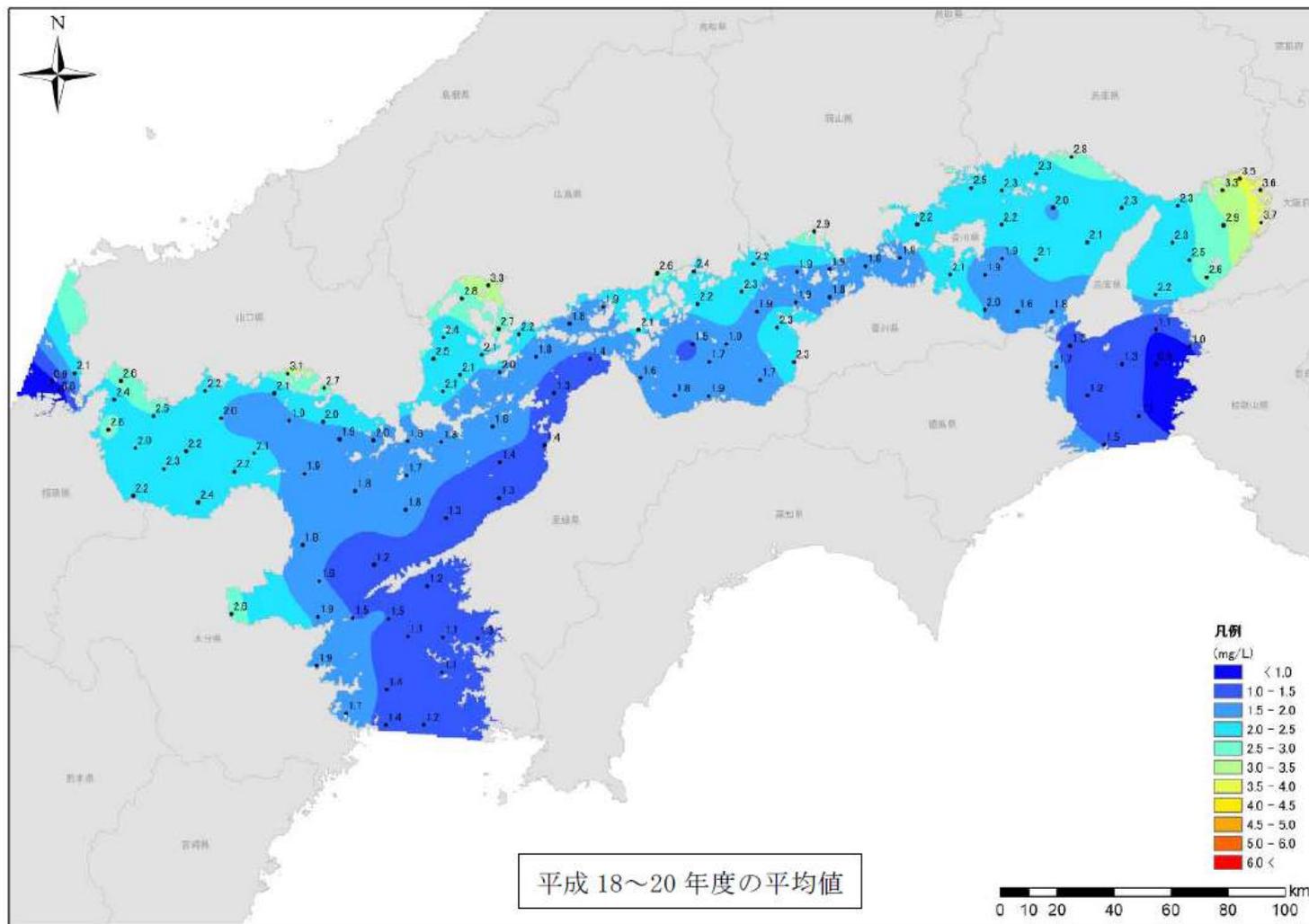


図 1 (2) 瀬戸内海における全窒素及び全燐の類型指定概況図 (国が指定する水域)



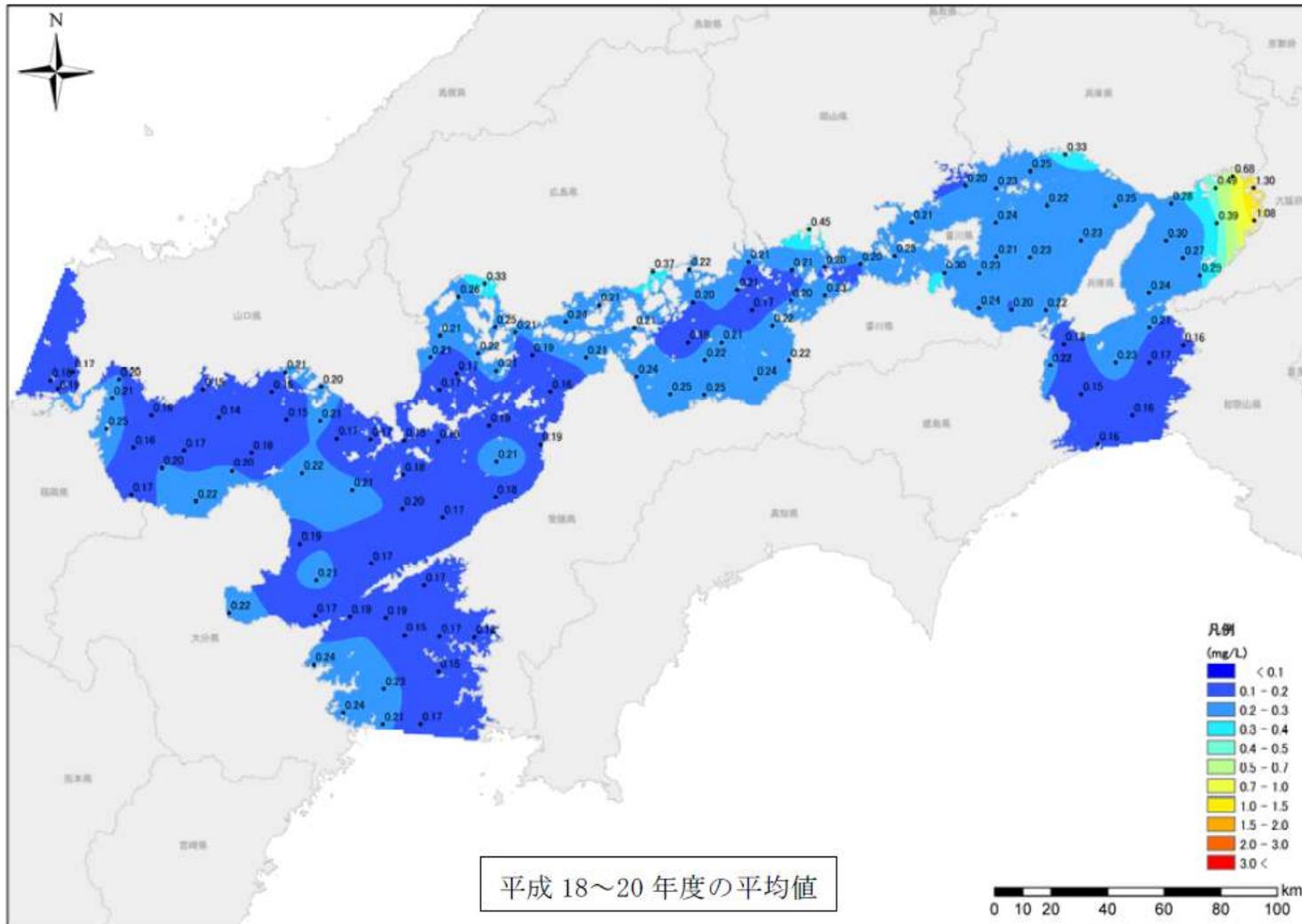
備考)「広域総合水質調査」(環境省)より作成

注1)各図に示す期間において測定されたCODの平均値より作図した。

注2)図中の数字は、近傍黒丸地点での測定されたCODを表し、分布は測定結果から作成した。

出典:閉鎖性海域中長期ビジョン(平成22年3月)

図2(1) 瀬戸内海におけるCODの水平分布



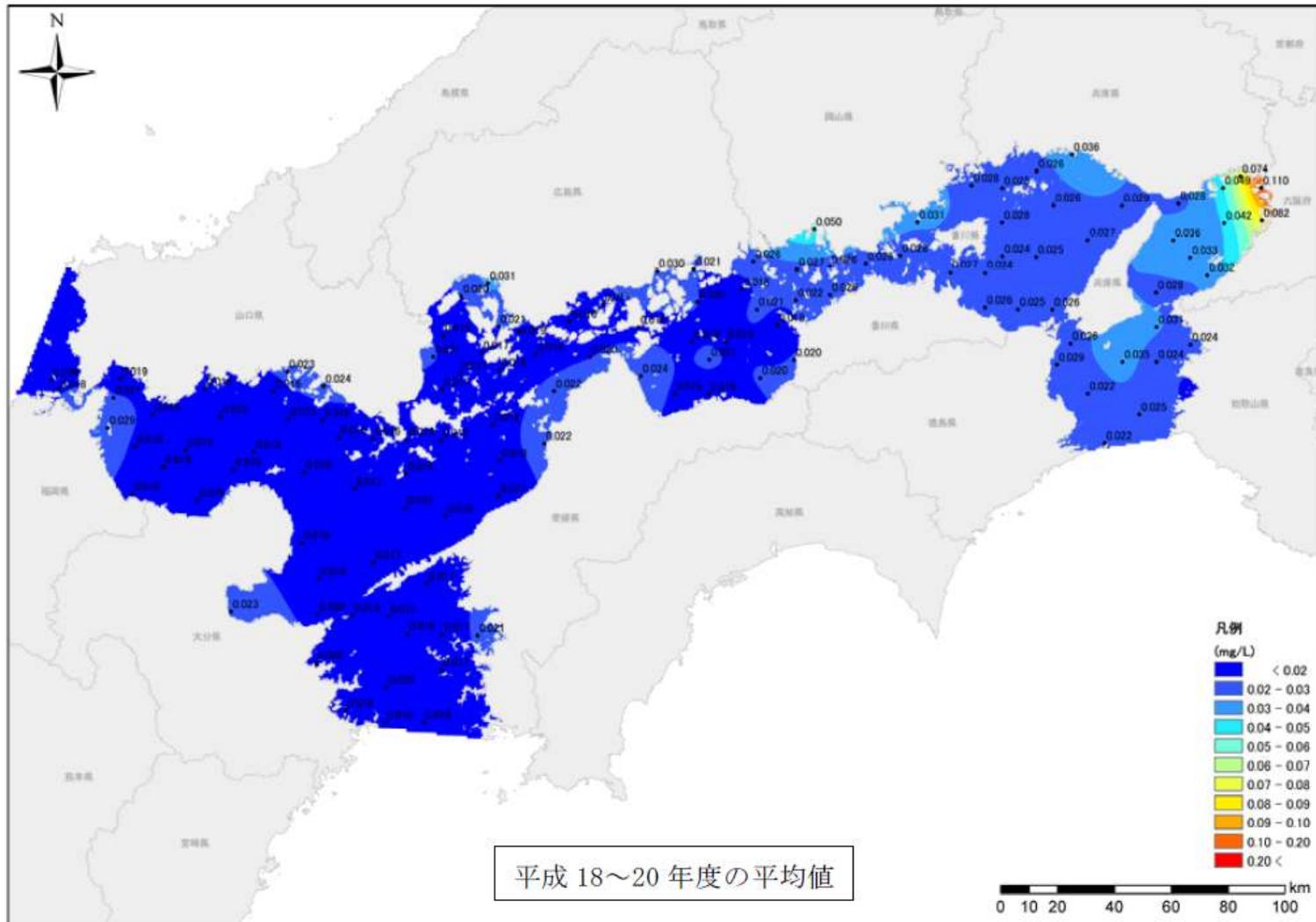
備考)「広域総合水質調査」(環境省)より作成

注1)各図に示す期間において測定されたT-Nの平均値より作図した。

注2)図中の数字は、近傍黒丸地点での測定されたT-Nを表し、分布は測定結果から作成した。

出典:閉鎖性海域中長期ビジョン(平成22年3月)

図2(2) 瀬戸内海におけるT-Nの水平分布



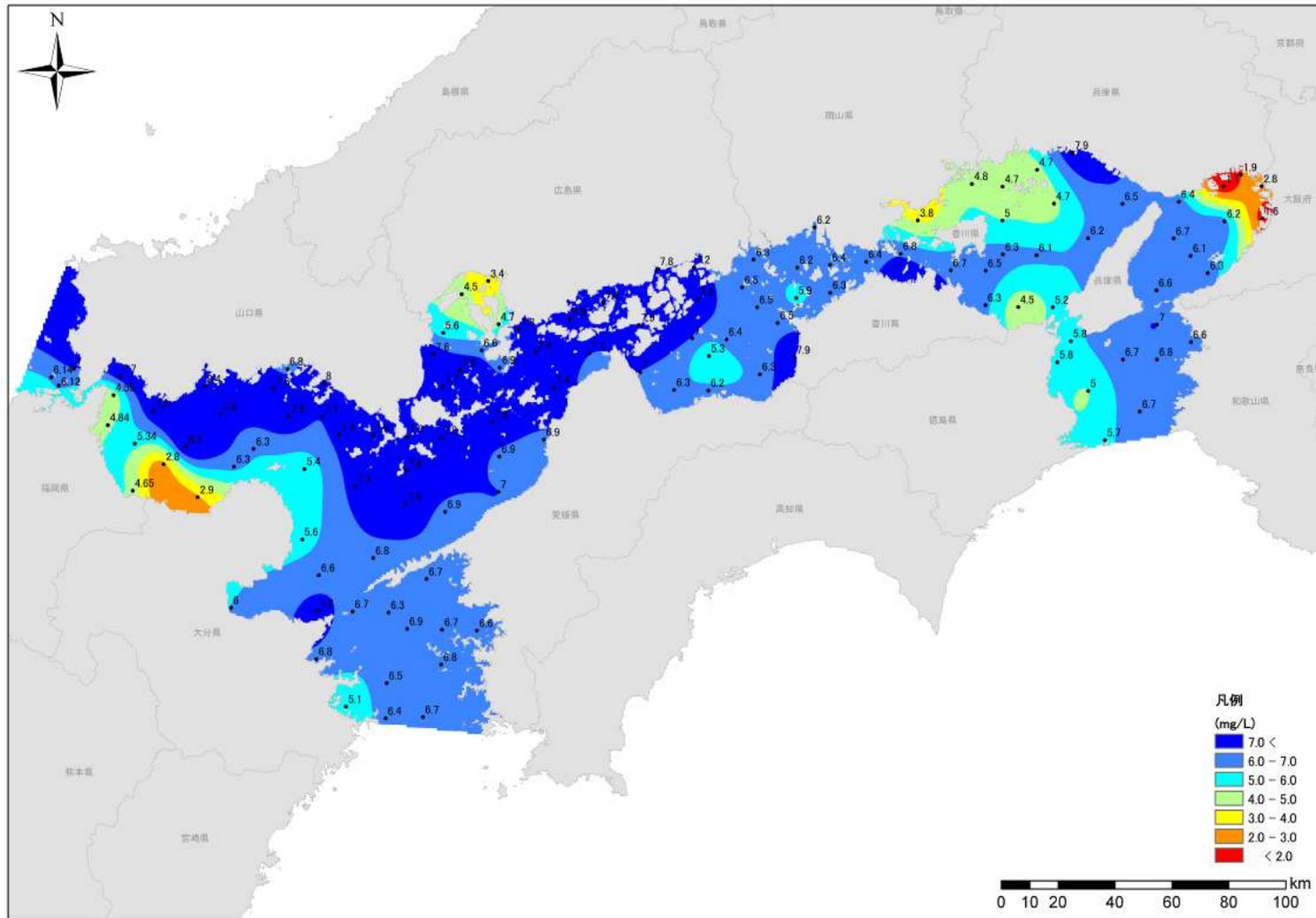
備考) 「広域総合水質調査」(環境省)より作成

注1) 各図に示す期間において測定されたT-Pの平均値より作図した。

注2) 図中の数字は、近傍黒丸地点での測定されたT-Pを表し、分布は測定結果から作成した。

出典：閉鎖性海域中長期ビジョン(平成22年3月)

図2(3) 瀬戸内海におけるT-Pの水平分布



備考) 「広域総合水質調査」(環境省)より作成

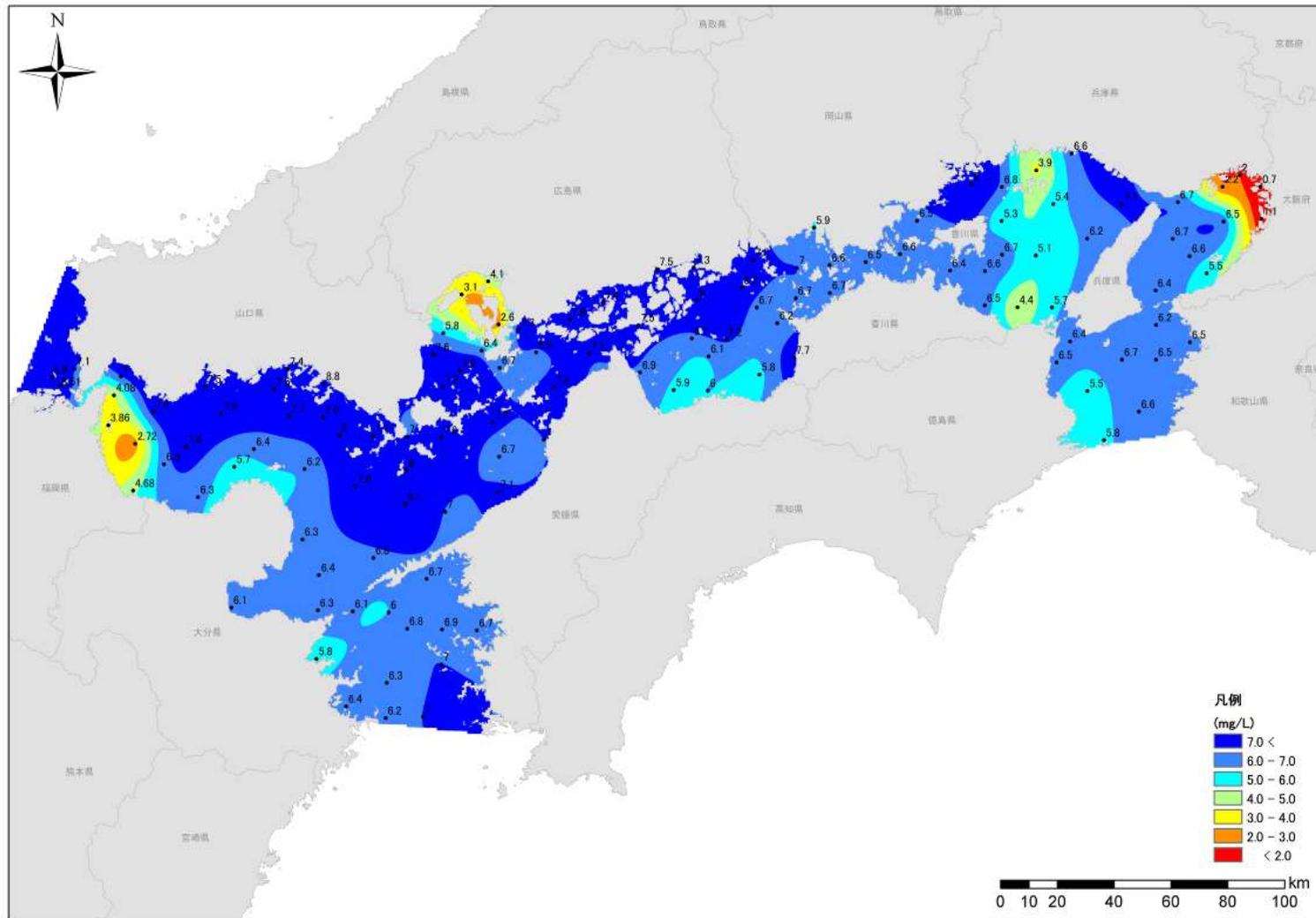
注1) 図は、広域総合水質調査で行われている四季調査のうち、一般的に底層DOが低下する傾向にある夏季調査の結果を用いて作成した。

注2) 作成する年度としては、最近の状況を示すものとして平成18年度から平成20年度を抽出した。

注3) 図中の数字は、近傍黒丸地点での測定された底層のDOを表し、分布は測定結果から内挿及び外挿を行うことにより作成した。

出典：閉鎖性海域中長期ビジョン(平成22年3月)

図3(1) 瀬戸内海における夏季底層DOの分布(平成18年度)



備考)「広域総合水質調査」(環境省)より作成

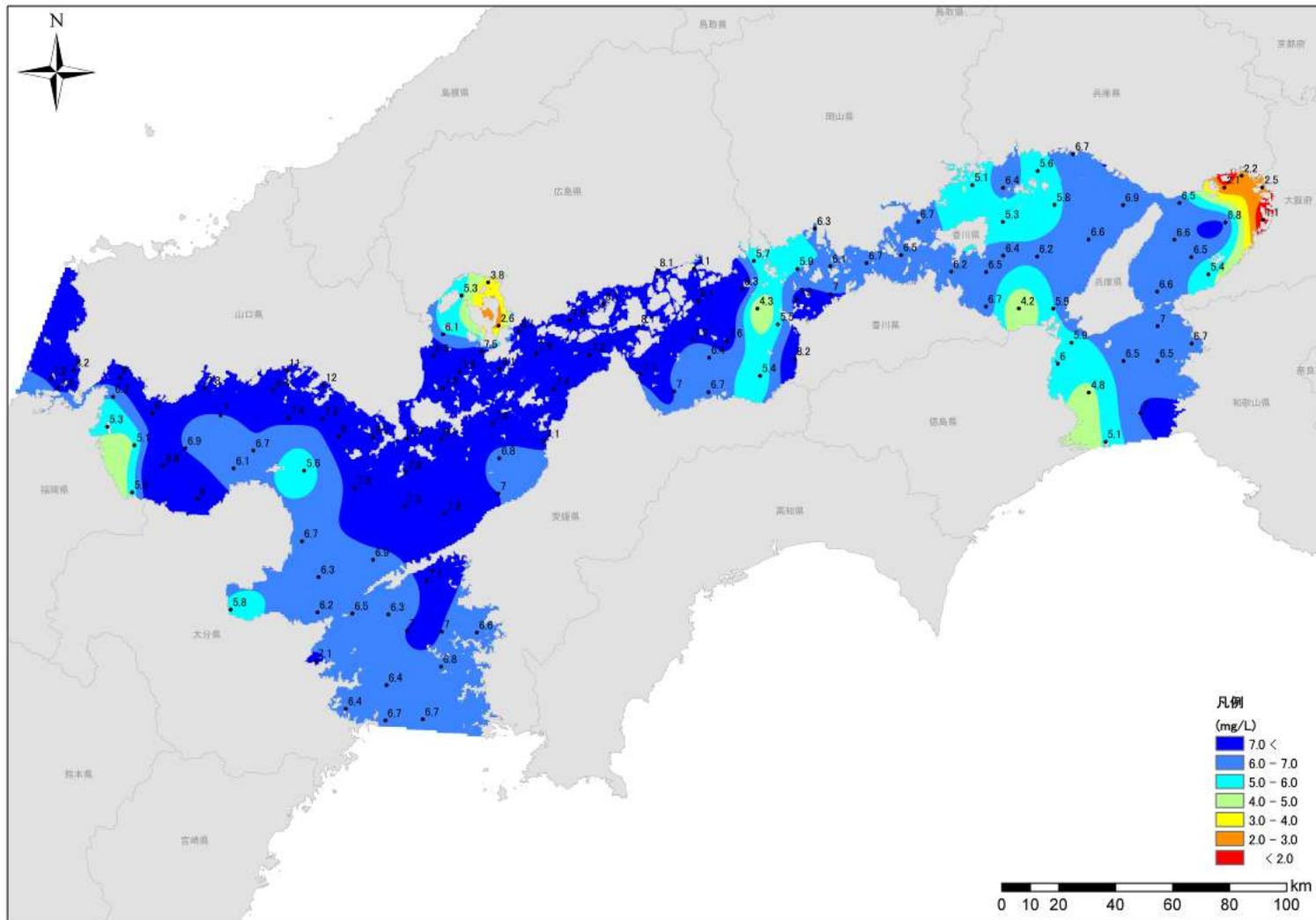
注1) 図は、広域総合水質調査で行われている四季調査のうち、一般的に底層DOが低下する傾向にある夏季調査の結果を用いて作成した。

注2) 作成する年度としては、最近の状況を示すものとして平成18年度から平成20年度を抽出した。

注3) 図中の数字は、近傍黒丸地点での測定された底層のDOを表し、分布は測定結果から内挿及び外挿を行うことにより作成した。

出典：閉鎖性海域中長期ビジョン(平成22年3月)

図3(2) 瀬戸内海における夏季底層DOの分布(平成19年度)



備考) 「広域総合水質調査」(環境省)より作成

注1) 図は、広域総合水質調査で行われている四季調査のうち、一般的に底層DOが低下する傾向にある夏季調査の結果を用いて作成した。

注2) 作成する年度としては、最近の状況を示すものとして平成18年度から平成20年度を抽出した。

注3) 図中の数字は、近傍黒丸地点での測定された底層のDOを表し、分布は測定結果から内挿及び外挿を行うことにより作成した。

出典：閉鎖性海域中長期ビジョン(平成22年3月)

図3(3) 瀬戸内海における夏季底層DOの分布(平成20年度)

表 1 瀬戸内海における検討対象水域の干潟・藻場・浅場の概要

海域名	干潟		藻場		浅場
	箇所数	面積 (ha)	箇所数	面積 (ha)	
大阪湾	8	80.8	18	108.8	湾央（兵庫県神戸市付近から大阪府岬町付近を結んだ線）から湾奥部がほぼ全域が30m以浅の浅場となっており、兵庫県神戸市地先（湾北西部）、大阪府西宮市～高石市地先（湾東部）、大阪府岸和田市～岬町地先（湾南部）に分けられる。
播磨灘北西部	3	77.0	32	144.0	ほぼ全域が30m以浅の浅場となっている。
備讃瀬戸	57	893.2	146	1,128.4	東部から中央部にかけて水深40m程度の水域が存在するが、ほぼ全域が30m以浅の浅場となっている。
燧灘東部	11	362.0	9	42.0	全域が30m以浅の浅場となっている。
燧灘北西部	123	646.2	267	1,347.6	北部及び東部から南部にかけて30m以浅の浅場となっている。
広島湾西部	42	361.0	101	352.2	北東部及び南東部に30m以深の水域が存在するが、それ以外のほぼ全域が30m以浅の浅場となっている。
響灘及び周防灘	43	5,965.3	48	3,371.8	ほとんどが30m以浅の浅場となっている。周防灘においては陸岸から東側に向けて緩やかな勾配を呈しているが、周防灘から響灘へ繋がる関門海峡及び響灘沿岸は周防灘に比べて、急峻な地形を呈している。
東京湾（参考）	16	1,676.9	39	1,481.4	湾奥部及び中ノ瀬、富津地先、三浦半島沿岸部、内房沿岸部において浅場が見られる。
伊勢湾（参考）	34	1,069.3	16	232.0	湾奥部及び津地先、知多半島北部・南部、伊勢地先において浅場が見られる。

出典：第5回自然環境保全基礎調査（環境省）

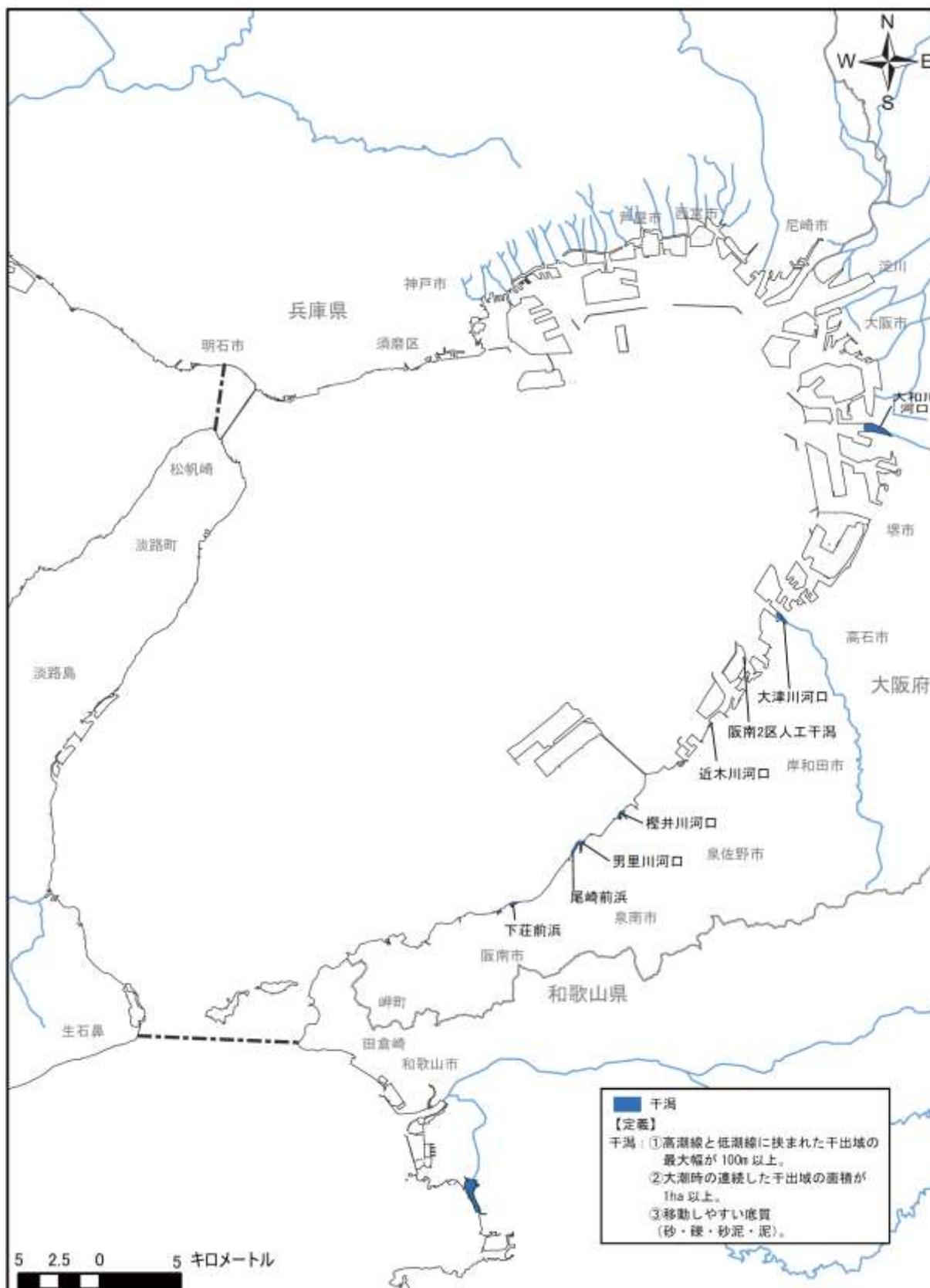


図 4 (1) 大阪湾【干潟の分布状況】